

# EDUCAUSE 年次カンファレンス 2024 参加報告

白井 伸宙<sup>1)</sup>, 中村 素典<sup>2)</sup>, 森村 吉貴<sup>2)</sup>, 島袋 友里<sup>2)</sup>, 丸山 伸<sup>3)</sup>, 梶田 将司<sup>4)</sup>, John Augeri<sup>5)</sup>

1) 三重大学 2) 京都大学 3) 株式会社シー・オー・コンヴ

4) 名古屋大学 5) イル・ド・フランス・デジタル大学 - パリ

kajita@nagoya-u.jp

## A Report on EDUCAUSE Annual Conference 2024

Nobu C. Shirai<sup>1)</sup>, Motonori Nakamura<sup>2)</sup>, Yoshitaka Morimura<sup>2)</sup>, Yuri Shimabukuro<sup>2)</sup>,  
Shin Maruyama<sup>3)</sup>, Shoji Kajita<sup>4)</sup>, John Augeri<sup>5)</sup>

1) Mie University 2) Kyoto University 3) CO-CONV, Corp.

4) Nagoya University 5) Île-de-France Digital University - Paris

### 概要

本企画セッションでは、EDUCAUSE 年次カンファレンス 2024 の参加報告を行う。カンファレンス全体状況や各セッションの状況に加え、展示会の状況やフランス派遣団との連携に焦点を当てて報告する。

## 1 はじめに

国際連携室では、EDUCAUSE 年次カンファレンスにおいて、AXIES レセプションやセミナーを開催し、日本からの参加者に対して EDUCAUSE 首脳陣との意見交換や他国の EDUCAUSE ライクな組織との交流を行ってきた [1]。一昨年度から開始した EDUCAUSE 年次カンファレンス派遣事業では、ポストコロナ時代を見据えた国際的センスのある後継者を育成しつつ、EDUCAUSE 年次カンファレンスを通じた知見の共有や大学 ICT 活用推進機関との連携を強めることにより、AXIES の人的ネットワークのグローバル化を推進することを目的としている。今年の EDUCAUSE 年次カンファレンスは、オンサイトカンファレンスが 2024 年 10 月 21 日～24 日まで米国サンアントニオにおいて、また、オンラインカンファレンスが 2024 年 11 月 13 日～14 日で開催された。

## 2 年次カンファレンス派遣事業

本事業では、次の 2 つの目標を設定している：

**目標 1:** EDUCAUSE 年次カンファレンスにおける ICT 利活用に関する最新動向を調査し、AXIES 会員大学・賛助企業と共有することにより、新たな会員サービスの拡充を図る。

- AXIES 派遣団（AXIES 負担・個人負担の 2 パターン）を組織化し、調査を実施する。

- 国際的センスのある後継者育成を図るため、AXIES 負担による参加者は会員大学に所属する若手人材（20～40 代）を想定している。
- AXIES 負担による参加者は公募とし、以下の作業を請け負うものとする。

1. 報告書の取りまとめ作業
2. AXIES 会誌への記事投稿（複数回）
3. EDUCAUSE 年次大会参加者や近隣大学訪問によるインタビュー調査
4. AXIES 年次大会企画セッション報告

**目標 2:** EDUCAUSE を含む各国における大学 ICT 活用推進機関（EDUCAUSE-like Organization）との連携を強め、AXIES の人的ネットワークのグローバル化を推進する。

- 当面はすでに連携の実績がある CHEITA やフランスとの連携を模索する。
  - － CHEITA (The Coalition of Higher Education Information Technology Associations) は各国における高等教育機関における ICT 活用を促進する組織として 2011 年に設立され、AXIES もその創設メンバになっている。
  - － フランスとの連携は、AXIES Reception に毎回招待しているパリデジタル大学や Apereo Foundation\*1 と深い関係のある

\*1 AXIES は MoU (Memorandum of Understanding, 基本

ESUP (<https://www.esup.fr>) の関係者が毎年派遣している EDUCAUSE カンファレンス代表団を想定している。

- インタビュー調査や EDUCAUSE カンファレンス報告書の共同執筆等を行うことを想定している。

### 3 昨年度までの活動状況

カンファレンス派遣団として毎年 1 名を採択、デンバー（2022 年度）およびシカゴ（2023 年度）で開催されるオンサイトカンファレンスに派遣するとともに、フランス代表団と共に近隣大学への訪問を行った（2022 年度はデンバー周辺の 4 団体、2023 年度はシカゴ大学）。その報告を、AXIES 年次大会で企画セッションとして実施するとともに、フランス代表団との報告書の共同執筆について調整し、2023 年度から共同レポートを日英で公開した [2]。派遣団員による報告書も合わせてご覧きたい [3, 4]。

### 4 今年度の活動

今年度から派遣団種別を以下のように設定し、派遣事業の拡大を図っている：

**派遣団員（甲型）** 目標 1 のすべての活動に参加できる方。すべての参加経費が支給される。

**派遣団員（乙型）** 目標 1 のいずれかの活動に参加できる方。EDUCAUSE カンファレンス参加経費は所属組織による負担だが、年次大会の参加経費は支給される。

**派遣団員（丙型）** 目標 1 のいずれかの活動に参加できる方。参加経費はすべて所属組織による負担。

**派遣団員（丁型）** EDUCAUSE カンファレンス参加経費等は所属組織による負担で派遣期間のすべてまたは一部に参加される方。

**派遣団員（戊型）** サンフランシスコまたはサンノゼ近郊で企業訪問を企画頂ける方。

その結果、甲型 1 名、丁型 4 名の応募があった。戊型については来年度に向けて事前に調整を進めたいと考えている。

また、EDUCAUSE では、ベンダーとの関係のあり方について模索しており、その一つの結果として、321 社が出展している展示会場が “Enterprise Security, Infrastructure, and Support”, “Teaching and Learning”, “Cybersecurity, Privacy, and Risk Management” の 3 つの区画に分類され（図 1 参照）、参加者の問題意識にあった展示ブース訪問を効率よくできるようになっている。年次大会企画セッションでは、この新しくなった展示会の報告も行いたい。



図 1 EDUCAUSE 2024 展示会場フロアプラン。

ity, Infrastructure, and Support”, “Teaching and Learning”, “Cybersecurity, Privacy, and Risk Management” の 3 つの区画に分類され（図 1 参照）、参加者の問題意識にあった展示ブース訪問を効率よくできるようになっている。年次大会企画セッションでは、この新しくなった展示会の報告も行いたい。

### 参考文献

- [1] 梶田 将司, “想いの共鳴～大学 ICT 推進協議会創成記～”, 大学 ICT 推進協議会会誌 AXIES Trajectory, [https://axies.jp/\\_media/2024/05/axies\\_trajectory\\_vol101\\_03.pdf](https://axies.jp/_media/2024/05/axies_trajectory_vol101_03.pdf)
- [2] EDUCAUSE Annual Conference 2023 仏日代表団, “EDUCAUSE Annual Conference 2023 仏日代表団 共同レポート”, [https://axies.jp/\\_media/2024/05/EDU23\\_frjpReport-JP.pdf](https://axies.jp/_media/2024/05/EDU23_frjpReport-JP.pdf)
- [3] 松浦 孝紀, “AXIES 国際連携室企画 EDUCAUSE 2022 派遣事業参加報告書”, [https://axies.jp/\\_media/2020/04/EDUCAUSE-2022参加報告書\\_20230302.pdf](https://axies.jp/_media/2020/04/EDUCAUSE-2022参加報告書_20230302.pdf)
- [4] 松橋 拓人, “EDUCAUSE 派遣事業（国際連携室より）に参加して”, [https://axies.jp/\\_media/2024/05/axies\\_trajectory\\_vol101\\_07.pdf](https://axies.jp/_media/2024/05/axies_trajectory_vol101_07.pdf)